最優秀賞

もう一度チャンスをください

張　　博　文
ZHANG BOWEN

私は学校を卒業後ずっと貿易会社で勤務しました。日本で介護の仕事をしようと思うきっかけは祖母の死でした。

私の祖母は脳こうそくで半身不随になりました。記憶の中に祖母の健康な姿を見たことがありませんでした。病床に横になる祖母は自分のことよりいつも私のことを気にかけてくれました。反抗期の時もいつも私の味方で私の第一理解者でした。

卒業後、大都会の貿易会社に就職できました。祖母はすごく喜んでくれました。離れて暮らすようになりましたが、祖母はよく田舎の特産品を宅配便で送ってくれました。ある日、家族から連絡がありました。母親が介護疲れで体調を崩してしまいました。今の仕事を辞めて、田舎に帰ってこいと言われました。長年ずっと祖母の愛情をもらう一方で、恩を返す機会もありませんでした。まさに今が祖母への介護は一番恩返しだと思いました。

田舎に戻ると、祖母は大分弱くなっていました。母親は昼間の担当で、私は夜の当番でした。祖母は食欲はないのに私が作ったご飯だけは食べるようになりました。日々元気になって来ました。ある日の夜、祖母がいつものように優しく私を呼びました。トイレに連れて行ってくれない？寝室からトイレまで十五歩歩いたところ、祖母の体が急に重くなり、手足が駄目になってぐにゃと倒れてしまいました。大声で何回も祖母を呼んだが、返事はありませんでした。祖母の心臓マッサージをしようと思いましたが、いざという時まさに心臓がどこにあるのか何をどういうふうにするのかまったく分かりませんでした。

救急車で運ばれましたが、病院で心肺停止状態が確認されました。救命の先生はもし心臓マッサージをしていれば、助かったかもしれないと言われたことに大変なショックを受け、とても悲しい思いをしました。

介護ってただ好きな食べ物を作ってあげたり、そばにいてあげたり、生活の介助ではなく、専門知識が必要であることを痛感しました。私は気がつくのが遅すぎて、どうしてもっと早く勉強しなかったかを後悔しました。

祖母への介護のきっかけで、介護の知識をもっと勉強しようと思いました。以前に勤めた貿易会社に戻らず新たに介護施設に就職することにしました。

インターネットで日本で介護の実習生を募集していることを知り、今の病院の面接に参加しました。自分の体験談を面接してくれた看護師長に話しました。是非うちの病院に来てくださいと言われました。

コロナ禍のせいで、一年以上の年月が経ち、様々な困難を乗り越えてやっと来日が出来ました。今組合で介護に関して一生懸命に勉強に励んでいるところです。介護の先進国の知識を必死に学んで、病院の患者様へよりよいサービスを提供したいと思います。病院の患者様のためにも天国にいる祖母にもう一度チャンスをくれるようにお願いをしています。

受賞の喜び

張　博文

国　　籍　中国
職　　種　介護
実習実施者　医療法人社団晃進会
監理団体　PNJ事業協同組合

日本語作文コンクールでの最優秀賞に選んでいただき、関係者の皆様に心から感謝しております。誠にありがとうございました。

私の組合では、来日したその夜から毎日日記を提出しなければいけません。集合講習中の最中でしたが、組合より「作文コンクールに応募してみませんか？」と言われた時に、日記の延長でいいのならと、気軽に返事をしました。テーマは直ぐに決まりました。それは日本に来る前に誓った決意を書こうと思いました。

看護師長から受賞の報告を受けた時は、信じられないほどの喜びと共にびっくりしました。看護師長や同僚に祝ってもらった時、私は顔を真っ赤にして何を言えばいいのか分からず、何度も「ありがとう」、「ありがとう」としか言えませんでした。幸いなことに、私は組合の先生方に出会い、日本での技能実習の経験は、私の人生で最も忘れられない思い出になりました。

この賞を頂いたことで、天国の祖母へ良い報告ができます。私はより一層責任を重く受け止めて、患者様の心と身体に寄り添えるよう、早く技術を身に付け介護福祉士を目指して頑張っていきたいと思います。

指導員のことば

張さんは、まだ入国して半年もたっていませんが、日本の介護の技術に対して、関心を強く持ちどんな業務にも積極的に取り組んでくれています。COVID-19が蔓延する中、当院でも対応を余儀なくされていますが、そこでも丁寧に環境整備や消毒の意味を理解し行っています。分からないことはそのままにせず、何度も話を聞いて間違いのないように業務にあたっています。当院は、高齢者が多い病院ですが、声をかけることを忘れずに優しく包み込むように接している姿があります。今後も日本の技術を身につけ張さんが目指す介護福祉士になっていただきたいと思います。

たま日吉台病院　看護部長　　小坂　靖子